

## ～高校生に牛乳を届けよう～

## JA新はこだて酪農生産部会(北斗市)



## 【取組のきっかけ】

- ◆ これまで、各支部単位による地元の祭りやイベントなどでの牛乳や牛乳券の配布にとどまっていたため、道南全体に向けて、牛乳の消費拡大の発信ができないか検討していた。
- ◆ 学校給食がなくなる高校生から牛乳離れが始まり、若い世代での牛乳消費低迷につながっているのではと考え始めた。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症により全国の小学校で学校給食が停止し、全国の飲用向けの約1割を占める学校給食向け牛乳の行き場がなくなり、生乳廃棄が危惧された。
- ◆ こういう時こそ、酪農生産部会として牛乳の消費拡大につながる活動が必要と考えた。



## 【取組の概要】

- ◆ 第1弾(2023.2.27)  
遺愛女子中学校・高等学校(函館市)に200ml牛乳912パックを無料配付、アンケート調査を実施。  
市立函館高等学校(函館市)に200ml牛乳480パックを無料配付、アンケート調査を実施。
- ◆ 第2弾(2023.10.23～10.27)  
道南地域の高等学校26校に無償提供の企画を提案し、賛同があった19校に対し、200ml牛乳5,280パックを無料配付。  
※第2弾実施にあたり、地元乳業会社から保冷車による配送協力があつた。

## 【組織等の概要】

- 組織名: JA新はこだて酪農生産部会
- 代表者: 金子 新市(函館市)
- 所在地: 北斗市本町1丁目1-21  
JA新はこだて庁舎内
- 支部: 八雲、せたな、北檜山、七飯、長万部、知内・木古内、北斗、函館、森  
(会員の多い順に記載)
- 部会戸数: 152戸

※JA新はこだては、2002年に渡島半島一円、2市12町、13JAの広域合併により設立。翌年、酪農生産組織の事業活動や乳質基準などの統一を図るため、酪農生産部会を開設。

## 【取組の成果】

- 2校の高校生に協力いただいたアンケート調査結果により、高校生(若い世代)の牛乳飲用頻度等の把握ができた。
- 道南地域の高校生に、若者の牛乳離れと酪農業が直面している人手不足などの実態を直接伝えることができた。  
また、各種メディアが取り上げたことで、酪農生産部会の取組が認知された。



【清尚学院高等学校へ贈呈】



【上ノ国高等学校へ贈呈】

## 【今後の展望】

- 広域組織のスケールメリットを生かし、高校生への酪農業界に関する理解度向上や牛乳の消費拡大につながるような活動を企画したい。